

2018 年度（対象年度：2017） 自己点検・評価シート

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
503	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。	B	B
	①収容定員の適切な管理 < 学士課程 > ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰 ・未充足に関する対応 < 修士・博士課程 > ・収容定員に対する在籍学生数比率		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
<p>503①入学定員、収容定員に対する在籍学生数比率は、学部及び研究科の責任のもと管理している。学士課程における2017年度における全学部の平均値は、入学定員に対する入学者数の割合は「1.01」、収容定員に対する在籍者数の割合は「1.06」であった。[503a] 入学者数については、文部科学省による定員管理厳格化に対応するため、公募推薦入試及び一般入学試験実施後に志願者動向等を部局長会に報告しており、適切な入学者数の受入に努めている。</p> <p>< 修士・博士課程 > 2017年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、修士課程50%、博士課程57%となっており、依然として未充足状態が続いている。</p> <p>抜本的な大学院改革の推進を図るべく、第2回全学教学政策会議（2017年9月28日開催）において、本会議で全学的な視点から本学大学院（各研究科）のあり方を検討し、必要な諸改革の実施に向けた改革方策等を提示するため、本会議の下に大学院改革委員会を設置することが承認された。[503e]</p> <p>これに基づき、大学院改革委員会において、①本学大学院の現状把握および分析等について②本学大学院のあり方や改革方策等について検討を行い、2017年度第3回全学教学政策会議（2018年3月22日開催）にて、「本学大学院における改革方策等について（報告）」について報告した。[503f]</p>	
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
503①	< 修士・博士課程 > 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の運用及び妥当性の検証。
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
503①<修士・博士課程> 収容定員未充足状態を改善するための方策として導入した、大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の効果検証を引き続き実施し、その結果を踏まえて選考方法など運用上の改善の必要性について検討する。あわせて本奨学金制度の妥当性についても検証を実施する。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
503①	<修士・博士課程> 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の効果検証や選考方法の改善を行うとともに、学内進学促進という目的に適した奨学金であるかどうか、その妥当性について検証する。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
503	a	2017 (H29) 学校法人実態調査【様式 1- (1)】
503	b	大学院特別給付奨学金の見直しに伴う新たな奨学金整備について（提案）<2014 年度第 5 回大学院委員会 資料>
503	c	龍谷大学給付奨学生選考細則
503	d	2016（平成 28）年度 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）による研究科への効果の検証について（研究科まとめ）<2016 年度第 4 回大学院運営委員会 資料>
503	e	大学院改革委員会の設置について（提案）
503	f	本学大学院における改革方策等について（報告）

II. 評価結果

総評
<p>学士課程について、2017 年度における全学部の平均値は、入学定員に対する入学者数の割合「1.01」、収容定員に対する在籍者数の割合「1.06」と、入学定員・収容定員ともに適切な管理ができていると評価できる。</p> <p>修士・博士課程は、2017 年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、修士課程 50%、博士課程 57%となっており、依然として未充足状態が続いている。</p> <p>抜本的な大学院改革の推進のため、大学院改革委員会を設置されたこと、そして全学教学政策会議に「本学大学院における改革方策等について（報告）」が報告されたことは、修士・博士課程の定員未充足を改善させる取り組みと評価できる。引き続き大学院改革を推進することが期待される。</p> <p>大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の効果検証や選考方法の改善を行うとともに、学内進学促進という目的に適した奨学金であるかどうか、その妥当性を検証することが望まれる。</p>
長所・特色《箇条書き》
<p>学士課程は、入学定員・収容定員ともに適切な管理ができている。</p> <p>抜本的な大学院改革の推進のため、大学院改革委員会を設置されたこと、そして全学教学政策会議に「本学大学院における改革方策等について（報告）」が報告された。</p>
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
<p>修士・博士課程は、依然として収容定員の未充足状態が続いているので、抜本的な大学院改革の推進等の改善が求められる。【努力課題】</p> <p>大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の効果検証や選考方法の改善を行うとともに、学内進学促進という目的に適した奨学金であるかどうか、その妥当性を検証することが望まれる。【留意点】</p>